

戦う在日
起業人

株式会社シング
楊博 代表取締役

留学生として来日、一旦は日本のソフト会社に努めたが、その経験をベースに「日中に関わる大きな仕事をしたい」とソフト開発会社を立ち上げて成功している在日起業家がいる。株式会社シング（大阪市北区）の代表取締役社長の楊博（ヤンボー）さんだ。若くして異国の地で起業した楊さんのサクセスストーリーに迫った。

日中ネットワーク構築、渾身のシステム開発

サービス業に徹し、顧客満足を追求

阪大を卒業、29歳で独立
ゼロから顧客拡大に全力



楊社長

楊さんは中国科学技術大学でコンピュータサイエンスソフトウェアを専攻した。1997年に同大を卒業したものの、もともと力を付けようとしていた。2年半の勉学の後、まず最初は大手自動車メーカーのソフトウェア子会社に入社した。ここでは生産管理・部品調達などのシステム開発に携わった。しかし、楊さんはこのポジションに満足しなかった。

「この会社で10年間働いても、10年後どうなるかわからない。取引先が大手企業という点もあり、安定しているが、面白みという点ではいまひとつだ。」
そこで「日中に関わる大きな仕事をしたい」と日中オフショア開発関連会社に移った。

「日本のシステム開発案件を中国に持っていく、中国の技術者で開発するという会社だった。社員十数人の小さな会社で、日本の大手ベンダーの下請け会社だったが、マネージャー（大阪分室責任者）という立場で営業から開発に至るまでトータルに関わった。そのため、2年半の勉学の後、まず最初は大手自動車メーカーのソフトウェア子会社に入社した。ここでは生産管理・部品調達などのシステム開発に携わった。しかし、楊さんはこのポジションに満足しなかった。



社内開発風景

中国拠点設けコスト低減
異文化克服で独自の工夫

共同開発といっても、一般的に日中共同開発では日本側のSEが日本発注者の意向を正しく汲み上げた設計書を作り、中国の開発部隊に指示を出す。すことになるが、中国の開発部隊は設計書に書いてある通りに開発を行う。基本的な作業としては、これと間逆でないが、顧客の意向を設計書に100%反映することはできない。システム開発では設計書に書いていなくても常識的にやらなければいけないことがたくさんある。書いなければ開発はできないばかりか、トラブルにつながる。



社内開発風景



社内開発風景

「この会社で10年間働いても、10年後どうなるかわからない。取引先が大手企業という点もあり、安定しているが、面白みという点ではいまひとつだ。」
そこで「日中に関わる大きな仕事をしたい」と日中オフショア開発関連会社に移った。

「日本のシステム開発案件を中国に持っていく、中国の技術者で開発するという会社だった。社員十数人の小さな会社で、日本の大手ベンダーの下請け会社だったが、マネージャー（大阪分室責任者）という立場で営業から開発に至るまでトータルに関わった。そのため、2年半の勉学の後、まず最初は大手自動車メーカーのソフトウェア子会社に入社した。ここでは生産管理・部品調達などのシステム開発に携わった。しかし、楊さんはこのポジションに満足しなかった。

「理解から責任が生まされる。責任があつて初めていい仕事ができる。」この基本理念のもと、お客さんのニーズを理解して、責任を持ってお客さんに満足して頂けるサービスを提供しております。同社は今年が3期目に入った。今年が勝負の年と楊社長は意気込む。現在のメイン事業はWebシステムの構築、業務システム、携帯アプリの開発、日本本社、中国の現地法人、そして提携会社を含めてグループ会社は10社に上る。日本本社は現在10人だが、今後はスタッフの増員を図り、来年には30人体制にのびていく計画。

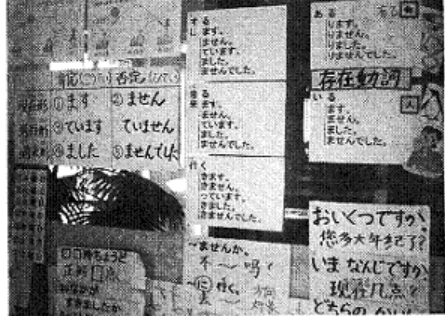
「この会社で10年間働いても、10年後どうなるかわからない。取引先が大手企業という点もあり、安定しているが、面白みという点ではいまひとつだ。」
そこで「日中に関わる大きな仕事をしたい」と日中オフショア開発関連会社に移った。

「日本のシステム開発案件を中国に持っていく、中国の技術者で開発するという会社だった。社員十数人の小さな会社で、日本の大手ベンダーの下請け会社だったが、マネージャー（大阪分室責任者）という立場で営業から開発に至るまでトータルに関わった。そのため、2年半の勉学の後、まず最初は大手自動車メーカーのソフトウェア子会社に入社した。ここでは生産管理・部品調達などのシステム開発に携わった。しかし、楊さんはこのポジションに満足しなかった。

「理解から責任が生まされる。責任があつて初めていい仕事ができる。」この基本理念のもと、お客さんのニーズを理解して、責任を持ってお客さんに満足して頂けるサービスを提供しております。同社は今年が3期目に入った。今年が勝負の年と楊社長は意気込む。現在のメイン事業はWebシステムの構築、業務システム、携帯アプリの開発、日本本社、中国の現地法人、そして提携会社を含めてグループ会社は10社に上る。日本本社は現在10人だが、今後はスタッフの増員を図り、来年には30人体制にのびていく計画。

企業概要

- ・社名/株式会社シング (XING Inc.)
- ・代表取締役/楊博 (ヤンボー)
- ・設立/2003年10月
- ・資本金/1500万円
- ・本社/大阪府大阪市北区中崎2-1-4 アクリスビル4F
- ・連絡先/TEL03-6359-1211 fax03-4306-4020
- ・事業内容/システム開発、ソフトウェアの企画・開発、ソフトウェア・ハードウェアの輸出、オフショア開発・支援・コンサルティング、国際交流、グローバル人材育成、中国マーケティング
- ・サービスの特徴/ (提案型) 指示されたことばかりでなく、お客様に役立つことを積極的に提案し、お客様が満足されるサービスを提供する (高品質/ローコスト) 中国のリソースを最大限に活用してコストを抑える同時に、高品質を保証する。



日本語教室

本丸「東京」上陸を準備
グローバル展開へ布石

「関西で起業を始めたのは、出身大学が大阪大学ということ。関西という土地柄が好きだったこと、東京のマーケットは大きい、競争が激しい、東京でトップを目指すのは至難の技だが、大阪では可能かもしれないと思つたから。しかし、東京にも拠点を作る計画で準備を進めている。」
関西から烽火を上げ、中国拠点を設置、さらには東京上陸と、楊さんは目下グローバル展開を目指して着実にビジネス拡大を図っている。

「理解から責任が生まされる。責任があつて初めていい仕事ができる。」この基本理念のもと、お客さんのニーズを理解して、責任を持ってお客さんに満足して頂けるサービスを提供しております。同社は今年が3期目に入った。今年が勝負の年と楊社長は意気込む。現在のメイン事業はWebシステムの構築、業務システム、携帯アプリの開発、日本本社、中国の現地法人、そして提携会社を含めてグループ会社は10社に上る。日本本社は現在10人だが、今後はスタッフの増員を図り、来年には30人体制にのびていく計画。